

【国の次期総合戦略に関する方向性】

<現行総合戦略の4つの基本目標>

1. 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

(国の資料「まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 について」から抜粋)

- ◆従来の枠組を維持しつつ、必要な強化
  - ・「地方への新しいひとの流れをつくる」の取組の強化
  - ・「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、子ども・子育て本部等と連携
- ◆「人材を育て活かす」、「誰もが活躍する地域社会をつくる」観点を追加
- ◆新たな視点に重点をおいて施策を推進
- ◆新しい時代の流れを力にする (Society5.0 等)、人材を育て活かす等

2019(令和元)年12月策定予定

<第2期総合戦略での4つの基本目標(予定)>

1. 地方にしごとをつくり安心して働けるようにする、これを支える人材を育て活かす
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる
4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

【県の次期総合戦略に関する方向性】

<現行県総合戦略の4つの基本目標>

- 基本目標1 県内にしごとをつくり、安心して働けるようにする
- 基本目標2 神奈川への新しいひとの流れをつくる
- 基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標4 活力と魅力あふれるまちづくりを進める

(神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会で示された資料から抜粋)

- ◆国が第2期「総合戦略」で新たに追加した視点は、可能な限り第2期「県総合戦略」にも反映する。
- ◆「かながわグランドデザイン第3期実施計画」における重点施策で、第1期「県総合戦略」に盛り込まれていない、もしくは内容が不十分な施策については、第2期「県総合戦略」に反映する。
- ◆第1期「県総合戦略」の取り組みを進める中で神奈川県地方創生推進会議から受けた指摘事項などを反映する。

2020(令和2)年3月末策定予定

大和市版総合戦略(計画期間:平成27~令和元年度)の計画体系

»「自然増」を促していくことを基本としつつ、「社会増」に関わる取組も人口減少対策の両輪として進めることとしたうえで、国、県の総合戦略を踏まえながら、4つの基本目標を柱として定めた。

■基本目標Ⅰ 結婚から出産、子育てが楽しくなるまち

個別目標1 出産しやすいまち・出産の希望がかなうまちにする

- ①希望する人が子どもを産んで仕事に復帰できるようにする
- ②出産・子育ての不安・悩み・負担を取り除く
- ③出産にかかる経済的負担を軽減する

個別目標2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちにする

- ①働くママ・パパをサポートする
- ②子育て等に関する情報を分かりやすく伝える
- ③子育てにかかる経済的負担や身体的負担を軽減する
- ④大和で生まれ・学べて良かったと感じられる子育て・教育環境を確保する

個別目標3 結婚しやすいまち・結婚したくなるまちにする

- ①結婚へとつながる支援のあり方を検討する

■基本目標Ⅱ 安全・安心で、時代を先取りしている楽しいまち

個別目標1 いつまでも健康でいられるまちにする

- ①健康寿命の延伸を図る
- ②スポーツを推進する

個別目標2 楽しく外出できるまちにする

- ①新たなコミュニティバス利用の提案
- ②親子で出かけたいまちにする
- ③ぶらっと出かけたいまちにする

個別目標3 子どもから大人まで、いつまでも暮らしやすいまちにする

- ①市域全体の均衡ある発展を促すまちづくり
- ②防災・防犯力、まちの安全性を高めるとともに、市民のつながりを強める

■基本目標Ⅲ 仕事が見つかりやすく、働くことが楽しいまち

個別目標1 近くで働けるまちにする

- ①ワーク・ライフ・バランスを進める企業の支援等を行う
- ②若年層等の就労をサポートするとともに、働くことの楽しさを伝える
- ③創業・企業の支援を行う

個別目標2 いつまでも・誰もが活躍できるまちにする

- ①豊かな経験や知識を活かしてもらう人とステージをマッチングする
- ②誰もが活躍できるまちを目指す

■基本目標Ⅳ 都心に・海に・山に近い、便利で暮らしが楽しく、富士山にも出逢えるまち

個別目標1 やまとの魅力を発信する

- ①市内・全国にまちの魅力を発信する

個別目標2 魅力的なイベントの開催・やまとの味覚を提供する

- ①このまちに住みたいと思えるイベントの開催
- ②やまとの味覚の提供

大和市版総合戦略におけるこれまでの取り組み概要

- ・保育所待機児童の解消を、市の最重要課題の一つと捉え、定員数の拡大(計画策定時:2,722人⇒2018:4,283人)や保育コンシェルジュによるきめ細かい対応を積極的に進めてきたことにより、2016年4月から4年間連続で待機児童ゼロを達成しました。
- ・不妊及び不育症治療費の助成など、経済的負担の軽減を図ったほか、妊娠・出産・子育てのあらゆる相談にワンストップで対応する「子育て何でも相談・応援センター」を開設(2017.4~)するなど、様々な子育て支援策を展開しました。
- ・「健康都市図書館」内に設置した健康テラスを活用し、健康に関する様々な講座を開催したほか、「歩こう係」の設置や、保健師等の地域訪問活動など、健康の維持、増進に向けた施策を積極的に展開しました。
- ・コミュニティバスの充実や自転車通行空間の整備、東名大和バス停の新たな活用を図るなど、交通利便性の向上を図りました。
- ・街頭防犯カメラの設置を積極的に進めてきたほか、新たに安全安心サポーター制度を開始するなど、防犯対策の充実を図りました。
- ・企業活動振興条例の制定及びこれに基づく奨励の実施や、起業家支援スペースの設置など、創業・企業への支援の充実を図りました。
- ・2018年4月に「70歳代を高齢者と言わない都市やまと」を宣言したほか、シルバー人材センターの活動支援や、市民活動の拠点となる施設(市民活動拠点ベテルギウス)を新たに整備するなど、高齢の方を中心に、市民活動や地域活動、趣味などに打ち込みやすい環境を整えてきました。
- ・駅を拠点とした魅力的なまちづくりに取り組むとともに、そうした魅力の発信に努めてきたほか、やまとde紅白歌合戦、やまとdeのど自慢など、市民参加型の新たなイベントを開催しました。

<本市の状況>

我が国の人口が減少傾向となっている中で、本市においては、様々な取り組みを着実に推進し、総人口は微増で推移している。

【次期大和市版総合戦略の策定に向けた基本的な方向性】

本市においては、現在も人口が増加していることを踏まえ、現行計画の大きな方向性は維持しつつ、近年の市の主な取り組みや、国・県の動向等を反映していくものとする。

基本的な方向性を踏まえ、どのような点に留意して計画を策定していくべきか？

<第1回会議の意見交換のポイント>

- ・近年、各分野において、少子高齢化、人口減少の進展を感じているか。また、どのような形で影響が出ているか。
- ・各分野では、少子高齢化、人口減少に対して、どのような取り組みが必要と考えているか。
- ・少子高齢化がますます進展していく中で、まちを活性化していくために、大和市はどのようなことに取り組んでいくべきか。